

議 事 要 旨 (公開用)

- 件 名 令和元年度第2回月形町創生総合戦略審議会
- 日 時 令和元年11月25日(月) 午前9時55分～12時10分
- 場 所 月形町役場 大会議室
- 出席者 委員：10名(別紙のとおり) ※ 欠席：5名
オブザーバー：空知総合振興局地方創生部2名
町：上坂町長(委嘱状交付・諮問のみ)、堀副町長、ほか10名
委託事業者：(株)ぎょうせい1名
- 傍 聴 2名

=====

1 開 会

【開会：企画振興課長】

2 委嘱状交付

【進行：企画振興課長】

※ 目黒委員欠席のため紹介のみ

3 諮 問

【挨拶：上坂町長】

- ・ それぞれの立場で、この総合戦略審議会の委員をお引き受けいただき、本当にありがとうございます。
- ・ 創生総合戦略については、国の主導で市町が戦略を作るという話もありますけれど、私は月形町にとって重要な計画であり、誰が町長になってもこの計画に基づいて、しっかりとまちづくりを進めなければならない重要な位置付けにあると思っております。
ですから、町民一人ひとりの声を聞き、行政のあるべき姿を町長がしっかりとやらなければならないということもあります。しかし、私は各方面の委員の皆さんに審議いただいたこの計画に基づき、行政を進めなければならないと思っております。
- ・ そして、この後に諮問させていただきますけれど、月形町は、私が町長に就任したときは3,500人でしたが、今は3,100人という状況にあります。他のまちに類を見ない「障がい者施設」が二つ、「老人施設」が二つあり、しっかりと支えていかなければならないと思っております。

私は、この月形のまちでなければできない、「定員をしっかりと守る」、「医療者が変更になっても他のまちや弱い立場の人たちが月形に来て福祉サービスを受ける」、「最も弱い立場の人の視点に立って、その人たちを支える職員たちの働き」、「それを町民がしっかりと支える」、そのことによって、他のまちとは人口減少のカーブも違うと思っております。そのこ

とも踏まえ、人口ビジョンの見直しなど皆さんにしっかりと検討していただきたい。

- ・ そして、「誰もが安心して豊かに暮らせる共生のまち」を目指し、子どもたちも月形の自然や農産物を本当に愛し、「町長さん、月形大好きです」と素直にそのことを表現してくれています。
- ・ 先般、中学校で福祉の総合教育があり、そのまとめのときに中学2年生のグループが「町長さん、この先、私たちは勉強やいろいろなことで、一時はまちを離れて学んできます。まちを離れるけど、必ず大好きな月形に戻ってきます」ということを言ってくれました。
町民の一部の方には、「札沼線もなくなる、月形学園もなくなる、お店もどんどん」というように、月形を激励と思いますけれども、「こんなまちでいいのか」という声もあります。
しかし、私は子どもたちがそのような形で月形を愛してくれる、月形をそう思ってくれる、そんなすばらしいまちを先人がしっかりと環境を繋いできてくれた。私はこの月形のまちが大好きです。誇りをもって役場の職員と町民が一体となって「誰もが安心して豊かに暮らせる共生のまちづくり」をしっかりとやっていきたいと思っております。
- ・ どうか、この後、穴澤会長さんに月形町人口ビジョンの改訂及び第2期月形町創生総合戦略の策定に係る諮問をさせていただきますけれども、委員各位の検討をよろしく願いして、少し長くなりましたけれども私の挨拶とさせていただきます。

【諮問：上坂町長】

上坂町長より穴澤会長へ諮問書を手渡し

【説明：企画振興課長】

次第資料3・5ページにより諮問内容を説明

4 会長挨拶

【挨拶：穴澤会長】

- ・ おはようございます。
今、諮問をいただきましたので、順番に進めていきたいと思っております。
- ・ 前はどちらかというと説明をひたすら聞くというところが多かったと思っておりますけれども、今回は私たちの意見を出していただくという場にできればと思っておりますので、皆さんよろしくお願ひします。

○ 出席者紹介

- ・ オブザーバー：空知総合振興局 名苗地域創生部長ほか1名
- ・ 委託事業者：㈱ぎょうせい 今泉研究員

5 議 事

【進行：穴澤会長】

(1) 平成30年度月形町創生総合戦略事業の効果検証等に係る答申について

【説明：企画振興課長】

次第資料1ページに基づき説明

前回の審議会でご意見をいただいた内容を基に答申（案）を作成していますので、ご意見をいただきたいと思います。

（人口ビジョンについて）

- ・ 現人口ビジョンにつきましては、平成27年度に策定しています。当時は、平成22年度（当時では4年前）の国勢調査の数値を基にする必要がありました。そのため、当初より住民基本台帳人口の数値と開きがあり、ご指摘をいただいていたところでした。
- ・ 合計特殊出生率について、2030年に「1.8人」というのは、かなり現状と離れているのではないかとのご指摘をいただいています。

（町外からの通勤者・通学者の移住定住）

- ・ 月形町を職場としているが、住まいは他の地域という方が多くいます。この昼夜人口の差が大きいということで、施策を考えてはどうかというご意見がありました。

【質疑・意見】

なし

（2）第2期月形町創生総合戦略の策定について

ア まちづくりアンケート調査の結果について

【説明：企画振興課長】

資料1に基づき説明

（P-5）

- ・ 「生活環境施設が整っている」、「人情味や地域の連帯感がある」について、前回アンケートよりも大きくポイントが増加している。

（P-7）

○ 30代の「住みたい」の意向が極端に少ない。

「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」が共に全年代の中で一番多い。

- ・ 若い人では、刑務所や福祉施設等の方の割合が比較的高いと思います。

その部分のアプローチが足りておらず、このような結果となっていることも考えられます。

（P-8）

- ・ 「買い物の便が悪い」の数値が大幅に改善しています。

ホームックニコットの出店やコンビニエンスストアが多いことなどが影響していると思われます。

- ・ 「道路・交通の便が悪い」が増えています。

JR札沼線の廃線による影響と思われます。

- ・ 「保険・医療環境が不十分」については、大きく増加しています。

町立病院の問題が不安の声として、アンケートの数値に表れたと思われます。

（P-14）

- ・ 年代的な特徴があります。
- ・ 30代以下では「医療体制」、「子育て支援体制」の改善度が全体と比較して高くなっています。
- ・ 40～50代では、「商業振興の状況」の改善度が全体と比較して高くなっています。
(P-24)
- ・ 「出産、育児、保育、教育などの経済的負担の軽減」が特出しています。
(P-27)
- ・ 30代の参加者が非常に少ない状況です。
(P-30)
- ・ 「職員の資質・能力の向上、人材育成」、「町民に分かりやすく、効率的な組織・機構づくり」が非常に多い状況です。

【質疑・意見】

- ○ (加藤委員) 今回のアンケートの回収数が313、30%有効ということですが、前回は890位回収がありました。前回は1000人に対する回答だと思いますけれども、相当回収の数が少ないと受け取れます。ここに関して、こういうところが原因というのは分かっていますか。
 - (企画振興課長) 前回は、2000人に配布しており今回の倍となります。それにしても少し低いですが、働きようせいさんに聞くと、全国的には低い方ではないということで、以前にご説明を受けております。
 - (加藤委員) 回収数が少ないということに関しては、項目が多いなどあるかもしれませんが、そこでも町に対する関心が低いということが分かります。こういうところは危機感をもって取り組んでいただければと思いますので、質問させていただきました。ありがとうございました。
- ○ (梅木委員) 7ページの定住意向の話ですが、30代の5.4%というのは、確かにかなり低く危機的だと思っています。

先ほど福祉関係とか刑務所へのアプローチという話でしたけれども、低い理由をもう少し、もし分析などされているのであればお聞きしたい。

 - (企画振興課長) その理由までを掘り下げた設問という項目になっておりませんので、分かりかねるところでございます。
 - (梅木委員) はい、分かりました。
- ○ (穴澤会長) 地域によっての差は、アンケート回収のところにありますけれども、札幌内地区が12.8%、中地区が多いのはなんとなく分かります。これは以前のアンケート調査などと傾向的には一緒ですか。それとも今回は極端に少ないですか。
 - (企画振興課長) 前回の資料はありますので、お答えできると思います。今、手元にご覧いただけないので、次回までに確認させていただきます。

- ○ (穴澤会長) 意見を反映させるときに地域によってこれだけ差があると、北の方々はどのように感じているだろうかとか、関心度にもなってくると思います。
- (梅木委員) 単純に人口の差ではないですか。住んでいる人口が多いのです。
- (穴澤会長) 回答数の割合ということで、住んでいる数が少ないということですね。
- ○ (谷川委員) 確認ですが、説明があったのかもしれませんが、前は20歳以上で今回は18歳以上ですよ。

対象者が2000人から1000人になった背景と、回収方法は前回と今回は同じだったでしょうか。そこだけ確認させてください。

- (企画振興課長) 18歳や回収の方法等は(中間評価と)変更ありません。2000人から1000人に下げた件については、全町的に人口も減少しております。また、前は振興計画10年の初年でしたが、今回は5年の中間ということもありましたので、1000人で実施しております。
- (穴澤会長) 今後のことも考え、例えばアンケートでこのような項目が必要などのご意見があれば。
- ○ (谷川委員) アンケートで3割の回答率があれば、十分に分析できる調査方法で、この信憑性は十分だと思います。

- ・ この意見欄を全部チェックさせてもらいました。調査対象になった人は、たまたま回答できるけれど、それ以外でも相当同じような意向があるだろうと思います。数値では表せないコメントの中に、本当に一人か二人の回答だろうと思いますけれども、とても将来を左右するような意見がたくさんありました。

おそらく事務局でも分かると思いますが、町民はこのように思っているだろうと、役場への意見では非常に厳しく見ている。書く人というのは、少数である程度限られている。やはり、コミュニティ活動で30代の人たちの意見がこのようになっているということは、今住んでいる30代の人たちが客観的に見ていると感じます。

- ・ 「花の里」というけど何も花がない。「何が花なの」というところ、何人かの意見にあります。私も長沼に住んでいますが、月形イコール「カスミソウ」や「花」というイメージはあるんですよ。何をもちて花なのかというのは、町民が見抜いているんですね。剣淵というのは、なんとなく「絵本の里」とレッテルを貼られている。月形を考えてみても、私は、月形イコール「花のまち」と思いますけれども、町民はそれほど意識していない。そんなことを強く感じますね。もったいないと思います。月形の財産ですよ。空知管内では「花の里」でおおる。日常生活や住民との意識の中に何かそういうものが今回のアンケートで見えた。
- ・ そして、コミュニティ活動です。日常のスポーツや文化活動、町内会活動があり、コミュニティ活動がやはり見えていないのかなということ。今回の設問の中では、そこまで入っていませんでしたが、参加するかしないかだけではなく、やはり大事なこ

とは「住みたい」とか「ここに住みたい」というのは地域の人間関係で、それは社会教育と生涯学習の日常的な繋がりなのだろうということを本当に今回のアンケートで思います。

- ・ 月形は我々から見ると、自然があって、花の里で、すごくいいまちだと思っているのに、アンケートを見るともったいなくなる。それでも政策の一環として入っているので、本当に今回のアンケートは、とても町民の意識が伝わったアンケートだと思っています。

イ 月形町人口ビジョンの改訂（案）について

【説明：企画振興課企画係長】

資料2に基づき説明

（前段）

- ・ 平成28年3月に策定した人口ビジョンの改訂（案）となります。
- ・ 平成28年3月に策定した人口ビジョンと平成30年度末の人口に約470人程度の乖離があるため、今回、改訂するものです。

（P-1）

- ・ 人口ビジョンは、将来展望人口などについて「住民の認識を共有」ということが非常に重要となります。
- ・ 総合戦略を企画立案するうえで、重要な基礎となります。
- ・ 国でも人口ビジョンを作成しています。

国では、今回推計を行った結果、前回と大きな差がなかったため、人口ビジョンの改訂は行っていません。

（P-2）

- ・ 道内では、札幌市が転入超過ですが、その札幌市でも東京に対しては転出超過となっており、東京一極集中は続いています。
- ・ 東京圏の合計特殊出生率は、1.2程度と全国の1.42程度と比較しても低い。
- ・ 「①今後の基本的視点」及び「②目指すべき将来方向」について、第1期から変更ありません。

（P-4）

- ・ 令和17年（2035年）には、高齢者人口（65歳以上）が生産年齢人口（15～64歳）を上回ります。
- ・ 生産年齢人口は、令和2年（2020年）で2,500人程度であったものが、20年後の令和22年（2040年）には、1,300人を割り半分程度となります。
極端にいうと、お店が半分、働き手が半分というイメージになります。
- ・ 人口問題は、人口そのものが減るという問題もありますが、人口構造が変わることが大きな問題となっています。

若者や働き手が減り、高齢者人口の割合が多くなると社会保障など各種制度の維持も難しくなります。全体的に人口が減り、人口構造の割合があまり変わらなければ影響は少ないと言われていています。

(P-6)

- ・ 直近2年については、グラフの下に張り付いており、自然減が多い状況となっています。

(P-11)

- ・ 特徴的な部分として、「④年齢階級別転出者の状況（女性）」の「25～29歳」及び「30～34歳」の転出先で「月形町周辺」の割合が他より高くなっています。

職場は月形のまま、住居を移転していることも想定されます。

(P-12)

- ・ 1日あたりの「通勤・通学者の状況」になります。
- ・ 月形町から他の自治体へ通勤・通学している方は237人で、他の自治体から月形町に通勤・通学している方は607人になります。

607人をどのように移住定住に繋げるかが重要となります。

- ・ 流入及び流出先は、主に岩見沢市と札幌市です。

(P-14)

- ・ 農業は、60歳以上が50%を占めており、高齢化や担い手不足が懸念されます。

(P-21)

- ・ 「総人口」の減少率に対し、「年少人口」及び「生産年齢人口」の減少が著しい状況にあります。

(P-22)

- ・ 本町の人口は、現在、「第2段階」に進行すると考えられます。
- ・ 「総人口」の減少率に対し、「生産年齢人口」の減少が著しい状況にあります。

(P-23)

- ・ 「シミュレーション1」で分かるように、「合計特殊出生率」の影響は限定的となります。率というよりも絶対数が少ないため、影響が限定的となります。

- ・ 「シミュレーション2」のとおり、「社会増減」の影響の方が大きくなります。

短期的な施策効果の高さとしては、「社会増減」の施策が有効となります。

- ・ ただし、「社会増減」の施策は、地域や日本全体としては同じ牌の奪い合いとなりますので、長期的には出生率の向上に向けた施策ということが大切になります。

(P-25)

- ・ 雇用の充実、子育て支援施策等の充実、住宅施策の充実などの取り組みが必要と考えられます。

(P-26)

- 先の審議会の経過を踏まえ、人口を推計しています。
 - ・ 「基準人口」

住民基本台帳人口と乖離がないように、10月1日現在の住民基本台帳人口を基準としています。
 - ・ 「合計特殊出生率」

現実的に目標として設定可能な範囲とし、全国平均を若干上回る「1.5」としています。
 - ・ 「将来の純移動率」

社人研準拠推計の仮定と同様に設定しています。

社人研の推計では、刑務所収容者を除いた推計はありませんので、刑務所収容者も同規模程度の人口減少として推計しています。
 - ・ 令和27年（2045年）には、総人口は2,000人を割ります。
 - ・ 生産年齢人口について、令和2年（2020年）で1,564人であったものが、令和22年（2040年）には753人と半減します。
 - ・ 前回の人口ビジョンで、令和42年（2060年）に1,500人であったものが、今回は、1,302人となっています。

ただし、前回はスタート時点から実際の人口と200人以上のずれがありました。それを補正し200人程度下げたものと、結果としては、今回同じような曲線となっています。
 - ・ 国勢調査の人口ではなく、実際の住民基本台帳人口を用いた推計も行っています。

直近10年分の実績を基に推計した結果、令和42年（2060年）で942人という非常に厳しい数値となりました。

ここ数年、自然減が顕著であったことから、住民基本台帳人口を基にした推計は採用しておりません。

【質疑・意見】

- ○ （谷川委員）外国人登録と農業関係や福祉関係の外国人登録者数はどのくらいか。
 - （住民課長）4人から5人程度だったと思います。
- （谷川委員）例えば、畑の面積は変わらず、その状態で第1次産業の農業をずっと維持していくには、今の月形さんの人口で維持できるのか、形態は変わっていくか。あるいは労働者をインバウンドということも考えると。今は4、5人ということ分かりました。
- ○ （梅木委員）意見ですけれども、今後、こういう資料を示すときに全部刑務所の人数を抜いて出した方が現実的です。最後に刑務所の人数を抜いたものが出て、更に衝撃を受けてしまったんですけれども。刑務所の人数が入ってしまうと、実際の内容が分かんなくなってしまうので、実際に出す資料は刑務所の人数を抜いた方がいいと思

います。

- (企画振興課長) 札幌市だと札幌刑務所があるかないかで、大きな差は出てきませんが、月形のように前回では4,000人のところに1,000人がいるということで、非常に大きく関わってきます。第1期の計画のときも、その議論がかなりされました。ただ、人口ビジョンの策定は国勢調査が基本になります。その基本をすべて排除して進めていくという訳にもなかなかいきません。月形町が特異ですけれども、少しご説明を付け加えながら、刑務所の収容者の人数が入った国勢調査というものもある程度使わざるを得ないと考えています。
- (梅木委員) そういう前提があるのであれば仕方ありませんが、少なくとも分析や将来どうするかを考えるときに、かなり差異や誤差が出てしまうと思います。将来的にこうしていきたいと思うならば、実施的な形でなければ意味がないと思います。外に出す数値とかではなく、将来どうすべきかを考えるときには、きちんとした数値を使わないと意味がないと感じました。
- (穴澤会長) 今のご意見も含めて、今回でいうと2番の将来展望の部分は、その数値を活かしたという解釈ですね。
- ○ (穴澤会長) ほかに何かありませんか。よろしいでしょうか。
- (全員) なし
- (穴澤会長) 皆さんご了承という形でよろしいでしょうか。
- (全員) よろしいです。

ウ 第1期月形町創生総合戦略の実施状況(見込み)について

【説明：企画振興課長】

資料3に基づき説明

- ・ 戦略については、KPIにより達成状況を見ていくということになります。
- ・ 本年度の数値については、見込みとして評価しています。

(P-2)

- ・ 「雇用の創出等による転出者の抑制」については、「農業後継者確保数」と「福祉関係就業者数」を合わせた数値

(P-3)

- ・ 「町外からの移住による転入者の増加」については、「町外からの移住」と「町内従業者の町外からの転入による人口増」を加算したもの
- ・ 「町内従業者の町外からの転入による人口増」については、アンケート調査によるもの
- ・ 「転入数」については、目標を未達成
転入については、若干改善の傾向にあります。

(P-4)

- ・ 「合計特殊出生率」については、対象人数が少ないため数値の変動が大きくなります。

長期的な傾向として捉える必要がありますが、戦略としては5年間の平均数値としています。

(全体)

- ・ 基本目標3ですけれども、月形町に限らず全国的にも同様であり、達成の難しい項目であると考えています。

【質疑・意見】

なし

エ 第2期月形町創生総合戦略(案)について

【説明：企画振興課企画係長】

資料4に基づき説明

1ページから3ページまでは、前回会議でもご説明しているとおりの流れですので、割愛させていただきます。

(P-4)

- ・ 月形町創生総合戦略は、「月形町人口ビジョンの将来展望を実現していくため」となっています。
- ・ 先ほどご説明のとおり、住民基本台帳の推計は人口ビジョンの推計を3割近く下回ります。従いまして、この後に説明する第2期の戦略を実施したとしても、人口ビジョンの将来展望人口を実現することは、相当程度厳しいと予想されます。

そのようなことから、今回の人口ビジョンは過度な合計特殊出生率や社会増減を見込むことなく、現実的な合計特殊出生率と社人研の推計値を使用し、目標となる将来展望人口としたところです。

- ・ 今回の第2期総合戦略事業は、町の最上位計画である月形町第4次総合振興計画後期基本計画の重点プロジェクトとして、すべて位置付けしています。

これにより総合振興計画と総合戦略の一体的な取り組みが可能となります。

(P-10)

- ・ 4つの基本目標については、第1期と変更ありません。
- ・ 施策については、全体で12施策から11施策としています。

第1期の基本目標4にあった「ふるさとづくりの推進」については、こめ工房や集出荷施設の整備、皆楽公園再整備、地域拠点施設整備、公共交通整備など、現在、多くの課題や大きな案件がありますので、それらに注力するという意味から今回戦略としての枠組みから外しています。ただし、その施策で実施していた「ふるさと活性化基金助成事業」、「行政区活動支援事業」、「スポーツ・文化団体・サークル活動の支援」などについては、引き続き総合振興計画後期基本計画の中で取り組みを

行っていきます。

(P-11~P-20)

- 事業数については、第1期の57事業から47事業に絞っています。
- 第1期では、国からの交付金を見込み多くの事業を掲載しました。しかし、実際は年々交付要件も厳しくなり、本町では平成27年度を最後に交付金を受けていません。
 - ・ 地方創生推進交付金は、「官民協働」や「自立性」などの要件があり、民間が主体となって自立していく事業や経済波及効果のある事業が必要となります。そのようなことから、今後も本町の交付金活用は限定的と考えられます。
- 施策ごとに「KPI」を設定しています。KPIを達成し、基本目標ごとの「数値目標」を達成しようというものです。
 - ・ すべて数値により指標化することは、非常に難しい作業となります。国等でもKPIの設定に苦慮しているところです。そのような中、本町でも第1期よりKPIや基本目標の指標を見直ししています。
 - ・ 「目標値」と「基準値」が同数など、目標が低いと感じる部分があるかもしれませんが、ただし、人口減少など右肩下がりの時代にあっては、同数でも実質は上昇目標と同様の意味をもつ状況となっています。ここ数年間の現状も踏まえ「目標値」を見ていただければと思います。

※ 以降、大きな案件のみ説明

(P-12)

- ・ 「集出荷施設新規整備事業」、「米穀乾燥調製貯蔵施設増強事業」を追加

(P-13)

- ・ 「福祉施設職員養成補助事業（仮称）」を追加

(P-14)

- ・ 「歴史を活かしたPRの推進」
日本遺産、北海道遺産となった「樺戸集治監」の取り組みを推進
- ・ 「皆楽公園エリア再整備」
現在、別に審議会を立ち上げ審議中

(P-15)

- ・ 「民間賃貸住宅建設支援事業」の拡充
住宅施策は、町外からの通勤・通学者の移住定住、若者の移住、雇用対策など各種施策にも関連する重要な取り組みと考えています。

(P-16)

- ・ 「再生産年齢（15~29歳）の女性人口」
5年後には、単純にスライドしたとしても、現在の45~49歳の70名程度が

減少し、10～14歳の40名程度が新たに増加します。差し引き30名程度が減少するため、「基準値」と「目標値」が同数であっても、非常に高い目標となります。

- ・ 「不育症治療費助成事業」を追加
- ・ 「子育て世代包括支援センターの設置」を追加

(P-17)

- ・ 「認定こども園給食費助成事業」を追加
こども園に通う児童の給食費無償化
- ・ 「乳幼児等医療給付事業」を拡充
年齢要件を15歳から18歳へ引き上げ
- ・ 「乳幼児等医療機関通院交通費助成」を拡充
小児科医以外の医療機関も対象
- ・ 「小児法定予防接種通院交通費助成」を追加
町外病院での小児法定予防接種時の通院交通費を助成

(P-18)

- ・ 「施策③ 教育環境の充実」を新設
内容としては、変わっていません。

(P-19)

- ・ 「地域拠点化整備事業」
現在、別に審議会を立ち上げ審議中
- ・ 「日常生活機能対策事業」
JR一部廃線に伴う代替バスの運行、デマンド交通の整備など

(P-20)

- ・ アンケートの重要度1・2位である「除排雪体制の充実」及び「地域医療の確保」も戦略として引き続き位置付けしています。

(全体)

- ・ 地方創生推進交付金がなかなか見込めない中、一般財源でどこまで事業を実施するか非常に難しい判断と考えています。
- ・ 人口ビジョンでもご説明のとおり、今後も着実に人口は減り、財政状況も厳しくなっていくことが予想されます。小さなまちの財政状況ですので、今回の大きな案件とのバランスも考慮しなければなりません。
- ・ 先ほどのご説明のとおり日本全体の人口が増えない中で、各地域で人口を奪い合うという構図も指摘されており、苦しい部分が否めないというところもあります。
- ・ また、地方創生では、「次の世代に何を残すか」、「次の世代に負荷を残さない」なども重要な要素になります。
- ・ 一つの側面だけではなく、様々な観点があろうと思いますけれども、ご審議をお

願います。

- ・ 12月にも会議を予定しております。そのときにご意見でも結構ですし、現時点でお気づきの点があれば、お願いしたいと思います。

【質疑・意見】

- ○ (穴澤会長) 今回と12月も再度、これについて検討するということですね。今日の質問と、今思いついている意見を言っていただいて、これで決めということではなく、12月に再度、審議をじっくりするという方向で進めていきたいと思っています。
- ○ (山本委員) 先ほど、基本政策では数字的には達成されているというお話でしたけれども、「にぎわい」とか「えがお」とか「ゆとり」という形で、「数字的には達成されています」とのお話でしたけれども、個人的な意見として、なんか「にぎわい」はあるのかなと、みんなに「えがお」はあるのかなって、「きぼう」をもてることのあるのかな、「ゆとり」はあるのかなと考えたときには、数字的に達成されているかもしれませんが、一町民としては感じられることが少ないと感じました。
- ・ 生まれ育ったまちですので、昔はとてにぎわいがあつて、帰ってきたときにはすごく寂れているなど感じました。月形には帰ってきて5年ですけども、まだまだ、すごくいいところがたくさんあつて、なぜ、それを活かさせられないのかなと、活かしてほしいなという感じをすごく思っています。
- ・ 「花のまち」でもありますし、そういうところもたくさんあります。この間、娘が資料館を見に行ったら、とてもすごくいいところで、「なぜ、お母さんこれ皆知らないんだろうね」ということを言ってくれたんですね。だからすごくいいところがあるのに、なぜ、活かされないのかなという感じがします。
- ・ それから、私もどんどん年取ってくると、帰ってきたんですけど、この先、ここで一生過ごそうかなと思っても、医療関係や交通の便の悪さ、そういうことを考えていくと、やはり都会に出た方がいいのかなと考えることもあるんですよ。年を取っていく私たちも、ここで安心して暮らすには、第一条件それだと思うんですよ。その辺もアンケートから見ると、とてもそれが低いとか、そういうところが不安だという。

いつもこういう会議に出席させてもらうときに、こういうように膨大な資料があつて、それを見るんですけども、「じゃあ、何をしなきゃいけないんだ」というところが、具体的に一つでも二つでも目標に向かって「これをしていかなきゃいけない」、「これをなんかやってみよう」というのが見えると、こういうように私たちも参加して良かったとか、私たちの意見は通るのかなと感じます。ちょっと私の感想ですけども、今、全体に見たところの感想を言わせていただきました。

- ○ (梅木委員) 30代という目線で話したいんですけども。まず、危機感の共有として、2040年問題と世間で言われていて、老人人口の1.5倍が生産人口になり、

かなり老人人口が増えてくるという問題が一つです。けれども、全国的な問題であり、月形町ではさっきのデータでいくと、もう既にそこは達しているという状況です。つまり地方自治体として維持がかなり難しい状況にあり、かなり危機感をもたないとだめです。全国的に人口が減っていくということは、いろんなものがシュリンクしていきって無くなる。そういった意味で考えると、かなり月形町は無くなる可能性が高いと思うんですね。

- 今回、総合戦略というのは5年前から始まっていて、すごいおもしろい企画をしているところにお金が下りていると思うんですね。地方創生交付金というのは、「なかなか」という話は「本気のところは助けるよ」という国の考えだと思うんですね。例えば、北海道でいうと沼田町だとか、下川町だとか、上士幌だとか、東川だとか、名前を聞くとそんなに月形町と変わらないまちだなというところが、かなりお金が下りていると思います。それは何かというと、内容を見たらおもしろいことをしているというのが、あると思うんですね。そういう危機感のもとで考えたら、「この今の施策で本当にこの人口の増が達成できますか」ということを考えたときに、自分の考えとしては100%達成できないと思いますね。このままの施策であるとする、やはり思い切ったことが絶対に必要だと思うんです。
- なんでこんなことを言うかということ、自分は今30代だと20年、30年先の話をしていて、それはまだ自分が住んでいる時期です。そのときにまちとして無くなると、かなり住んでいるのがきついと、子どもたちにそういうようにさせたくないという思いが強いので変えなければいけない。
- 自分が思っているのは、一番変えなければいけないのは教育制度だと思っています。答申の中の教育関係について、その方向性はすごくいいと思ったんですけども。その教育関係を変えるためにどういう施策が必要かという中で、例えば、18ページの教育環境については、前回と変わっていないというようにおっしゃいましたけど、ここ変えないとやばいんじゃないかなと。例えば、月形高校。月形高校で書いているのは「PR活動及び入学金の奨励事業を行う」、これは、ただただ、お金が減っていて何も起きない。月形高校に関してですが、選択は二つだと思います。「やめるか」、「まったく違う形態、普通科じゃない違う方向にして飛抜けた施策をするか」だと思います。そういった意味で、この辺を変えなければいけないと思うのが強い。
- あと、自分のアイデアの一つとして聞いてほしいですけども、来年度から5Gという第5世代に入ります。4Gになったときにスマートフォンが出てきて、かなり環境が変わったと思うんですね。それを先で見ていた人たちはビジネス的にすごいお金を稼ぎました。たぶん、5Gが来て5年後くらいには環境が変わると思うんです。また、そういった意味で必要になる人材はどんな人材かというと、IT関係の人材が絶対必要になるんですね。でも、IT関係の人材というのは、世間的にはものすごく

く人が足りなくて、そういう人材の育成をすれば国がよくなるというように考えています。でも、大きいまちにそういうノウハウは貯まっているけど、大きいまちはそういう施策がしづらいと思います。そういう「とんがった施策」が。プログラミングの教育をめっちゃくちゃできるような、例えば、町でプログラミングの専門の人を雇って、放課後に無料でプログラミングの塾をし、学校でもプログラミングの授業をするような。そういう教育が小学校や中学校でできれば、おそらく、あのまちはおもしろいことをしていると、人が来る可能性があるんですよ。

- 今やっている施策は「お金、補助を出します」というもの。住んでいる身としては助かるし、あってほしい施策ですけれども、だからといって、他のまちの人が住みたい施策かという、そうではない。住んでいて安心するという程度のレベルだと思うんですよ。
- 外のまちから人が来るということは、例えば、車でいうとトヨタみたいなものではなく、スバルやマツダみたいに、ちょっと「とんがった」ことをする必要があって、「とんがった」ことに引かかる人だけが来るような施策が必要なのかなというふうに思うんです。例えば、そのプログラミングの教育をやるような施策が自分は絶対に、今やらないと終わると思います。間違いなく無くなると思うので、そういう意味で、この案では苦しいというように自分は感じます。
- ○ (谷川委員) 基本的には、これがベースになっている。一つだけ。地方創生というときに、そこに住んでいる住民が主体だと思います。行政計画で住民が主体的にどう動くかということなんです。先ほどご意見であったように「住みたい、おもしろいまち」だと言える住民をどう育てるか。
- 今、梅木さんが言われたように教育なんです。この教育は、最終は住民の自己学習なんです。自己実現、自己形成から町内会とか、人間関係とか、コミュニティが作られていく。やはりこの教育という本当に目に見えないけど、今、相当多くの町民がいろんな自主的な団体活動や個人活動やっていますね。それをどう支援するか。この活動をしているから、これがあるから、友達がやっているから、ここに住みたい、住み続けたい。年を取っても認知なるまで、ここにいたいというのは、人間関係なんです。やはり、それがもう少し実際の行政計画に入ってくると、トップダウンではなくて、この計画を住民が理解しやすいように広めていって「よし、私たちも人口は間違えなく減っていくけれども、ここで頑張りたいな、やりたいな」と。
- 今さっき上士幌の話があり、本当に少数ではあるけれども、ここより人口は少ないですよ。しかし、若い人たちが「ここおもしろい」と言って、あそこは子どもが増えていますよね。一人でもマイナスとプラスで違いますからね。そういう意味では、やはり先ほどの町長のご挨拶を聞いて、おもしろくなりそうだなと感じますよ。
- それで、ここに福祉と関係する施設がありますよね。福祉施設、高齢者や障がい者

の施設、刑務所、この施設を自分たちの財産だという、そういう住民意識を高めていく。それと先ほどの監獄をベースにして。やはり網走刑務所とか、監獄、博物館に行くというのは、その財産。言いたいのは、そこに住んでいる住民がどう「私たちのものだよ」というか。施設の祭りなども全部住民と一緒にやる。目に見えない住民活動、コミュニティ活動をこれから「よしよし」と思ってやっていかなければならない。

- ・ それから自治会活動、人と人の触れ合い活動、やはりこれをもっとこう前面に出していく。これをベースにして。そうすると今言われたように、教育の面で、もう一回内容を強くしていく。トップダウンではなく、住民がやりたいということを支援し、それを計画に入れるとすばらしい。
 - ・ 今、おそらく住民活動をみんな知っているはずなんですよ。体育協会や文化協会のサークルとか。住民活動、自治活動、コミュニティ活動が一切無くなったらおそらく大変ですよ。自分たちで何千、何万円も会費を払って登録しなければならない。「住民のためにソフトボール大会、野球大会、将来のためにやってくれる」、このことを評価する。文化活動、スポーツ活動、子どもたちのためにやっている、これをもっともっと前面に。
 - ・ そして、この計画書を見たときに「私たち、こんなことやって、ここに住み続けたいたい」、間違えなく人口減っていくぞ、減っていくだけじゃなくて、その中でどう生きがいか、自分の人生の豊かさをね。
 - ・ 最後に言いたいのは、「花の里」というこれは他のまちでも聞いたことない。「花の里」は行政が作ったのか、住民が作ったのか、これは分かりません。しかし、住民側から「花の里」は見えていないと言っているということは寂しいんじゃないかな。ちょっと余計なこともありますけれども、そんなことが計画にあると、もう、住みたくなる。
 - ・ もう、札幌とか岩見沢に通うのなら、逆にここを拠点にして職場を札幌や岩見沢に。つい先ほど言ったけれども、これは逆転してくるよ。本当におもしろい。何がなんでも。
 - ・ あとちょっと気になっていたのは、本当に先ほどの意見の中で、職員に元気がないとかと。ちょっと言いにくいですが、やはり職員が花の里らしく、いつもこう。それがやっぱり住民活動でも、少し差があるのかなと。楽しい計画なると思います。
- （穴澤会長）今回は、意見を吸い上げて次回にということですが。次回にそれを含めて、どのようにここに盛り込んでいくか。前期部分からあるところを凝集したような形になっていて、梅木委員の提案がありました。
- ・ 目玉になるような部分を、例えば、もう少し梅木委員の言葉でいうと「とんがる」という言葉でしたけれども、そういった形で、それが計画化できるのか。確かにこの細かい計画で、そのK P I 値がどうのとか、実際どこまで達成できるのかというよう

なところできくと、いきなり12月にその形がスポンと入るかどうかというところは、あると思います。だから、そのときに、例えば、その書き方や出し方として検討しながら、要するに「伸びしろ」をね。これしかやらないのではなく、これにプラスして何をやっていくのかということを検討しながら進めていく。たぶん、そのようなやり方もあるのかなと梅木委員の意見を聞きながら考えていました。

- ・ 答申の中で出している「流入人口の定住」の部分があります。今後で今回のということではないですけれども、アンケート調査に住民ではないので、直接、反映されない部分があります。月形町に住んでいないけど、働いている人たちの意見をもう少し吸い上げる。他所で月形町に関わっている人をいかに定住するかという話なので。生の声をどう聴いて、それを施策に活かすような今後そういった方向を取れないのかなというのを思っていたところでした。事業所側にどのように話を聞き、その中での雇用している側、雇用されている側の方々にどう意見を聞くか。それを施策の中に反映するかどうかということが一つ重要かと思っていました。

- (穴澤会長) 本日、12時を過ぎましたので、本日はこれで。次回、12月という形になると思いますけれども、それまでにいろいろな形で進めていくというように思っています。

総合戦略の資料が多大なので、話をする時間がやはり短い部分があるので、できれば、資料は事前に送られてくるので、それを読んだという前提の中で議論の時間をなるべく多く取れるような形がほしいと思いました。

それでは、今日お越しいただいている振興局よりアドバイスいただければと思います。

- ○ (名苗部長) 大変熱心なご議論、ご苦勞様、お疲れ様でした。全国、北海道もそうですけれども、人口問題減少、あと地方創生ということで、第2期の計画に向けて各地域で取り組みを今行われてところであります。皆さま方の先ほどからの意見でもありましたとおり、行政でやる政策と住民の方々の想いが一致していけば、より良いまちづくりというものができるとかなというように感じました。また、町長のお話にもございましたとおり、子どもたちが「将来帰ってくるよ」というお話もいただいているということですので、如何に子どもたちが月形というまちで、小さいときや学生時代を過ごし、就職並びに進学で出ていくかもしれないけど、将来また戻ってきたいという想いにお応えできる取り組みができればというように私も思っておりました。

特に大きな市などではできないところだからこそ、住民の方々の顔やご意見が伺えるまちだからこそ、できる取り組みもあるのかなと思っておりますので、今後の議論に期待しているところでもあります。また、今後ともどうぞよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

(3) その他

○ 次回、審議会の開催日程について

【説明：企画振興課長】

- ・ 次回、12月の開催を予定しています。
国の総合戦略が公表された後にできればと思っておりますけれども、その辺の動向も見ていきたいと思えます。
- ・ 今ほど、ご意見に出た件でございますけれども、実は庁舎内の係長クラスで作るプロジェクト、管理職で作る策定委員会を経まして、今回、皆さんにご提示をさせていただきました。その中でも、これまでの5年間もそうですが、具体的な事業の設計というのは、途中の5年の中で要綱等を策定して作ってきたという経緯がございます。役場の中でも、ご意見をフィードバックしますので、具体的な事業として今回盛り込めなくても、そのような文書表現の中で積み上げていくという可能性は十分あるかと思えます。貴重なご意見をいただいて、それをまた、職員の方にも回していきたいと考えてございます。

6 閉 会

【挨拶：穴澤会長】

以上で議事の方は終了したいと思います。

【閉会：企画振興課長】

令和元年度 月形町創生総合戦略審議会委員名簿

■任期：R01.07.30～R3.07.29

(R01.11.25現在)

No	役職	氏名	所属等	出欠 (11/25)	備考
1	会長	穴澤 義晴	特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター月形事業所 そらち生活サポートセンター 所長	○	3-2(4) [その他]
2	副会長	尾崎 美世子	月形町社会福祉協議会 事務局長	×	3-2(1) [団体]
3		對馬 照巳	月形町行政区連絡会議 議長	○	3-2(1) [団体]
4		福井 誠	月形町農業協同組合 専務理事	×	3-2(1) [団体]
5		廣野 いづみ	月形商工会女性部 部長	○	3-2(1) [団体]
6		目黒 隆紀	月形町教育委員会 教育委員	×	3-2(1) [団体]
7		稲上 巧	(株)北海道銀行月形支店 支店長	○	3-2(2) [識見]
8		平畑 輝彦	北海道信用金庫月形支店 支店長	×	3-2(2) [識見]
9		谷川 松芳	北翔大学 非常勤講師	○	3-2(2) [識見]
10		西野 智佳子	月形町民生委員児童委員協議会 委員	×	3-2(2) [識見]
11		梅木 悠太	(会社員)	○	3-2(3) [公募]
12		山本 敬子	(主婦)	○	3-2(3) [公募]
13		矢原 雄平	月形町子ども・子育て会議 会長	○	3-2(4) [その他]
14		加藤 文敏	(町への移住者)	○	3-2(4) [その他]
15		渡邊 淳博	月形愛光園 施設長	○	3-2(4) [その他]